

2020/1/29

(効果的、効率的と思える英語(語学)教育行程表 案)

英語(語学)学習の効果的な行程表は、ズバリ一言でいえば、

「言葉の生成、発展の歴史過程をトレース(なぞらう)すること」につきののではないでしょう。

つまり「言葉や文字のない時代」「言葉や文字を試行錯誤して生み出した時代」そして「言葉や文字が整った時代」最後に「言葉や文字を覚える時代」に合わせて。

これを個人の歴史になぞらえるなら

「言葉も文字も全く分からない赤ちゃんの時代」「言葉や文字を試行錯誤しながら獲得し覚え始める幼少期の時代」そして「言葉や文字を小中学校で覚える時代」ということになりませぬ。

上記二つを通して言うなら

まずは「身振り、手ぶり、表情で」次に「数字やイラストや図表で」その次は「かたことのことばや前述の2つを交えたトータル表現で」

しかしそれでは結構大変なので、そこで初めて本格的に、より効率がよく効果的な手段としての「言葉や文字を覚えることを勧める」という具合です。

そうして、この言葉と文字の生成、発展、確定の各歴史的過程に従って国民的英語(語学)教育のプログラムを組んでいけば…。

思うに、我が国の英語(語学)教育の最大の問題点は、この言葉や文字獲得における歴史過程の一番最後の結果でしかないものを、一切合切抜きにして、教育課程の一番初めの段階から「国際会議出席レベル」という「ありえない奇跡」を要求する性急極まりない「無理難題の不自然さ、不寛容さ」にあるのではないのでしょうか。

3年間、四苦八苦、試行錯誤の繰り返しで、曲がりなりにも、英語を身に着けた老人の目から見ると、そのような気がしてなりません。

今のやり方では、恐らく100年英語(語学)をやっても誰も身につかない気がいたします。